

2020年代の総合物流施策大綱に関する検討会

# 地方自治体として考える 地方の物流の現状と今後について

---

村営コミュニティバスを活用した貨客混載の取組み  
カリコボーズの「ホイホイ便」事業

宮崎県西米良村  
西米良村長 黒木定藏

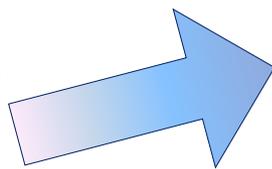


西米良村マスコットキャラクターの「ホイホイ君」



# 西米良村の位置

宮崎県中央西部  
九州中央山地  
降水量が多い  
夏季冷涼  
昼夜の高い温度差





# 西米良村の概要

沿革

明治22年5月1日 村制施行

\* 旧米良領のうち「東米良」地区は近隣市に合併

人口

1,106人(男性556人 女性550人) ※R2.8.31現在

世帯数

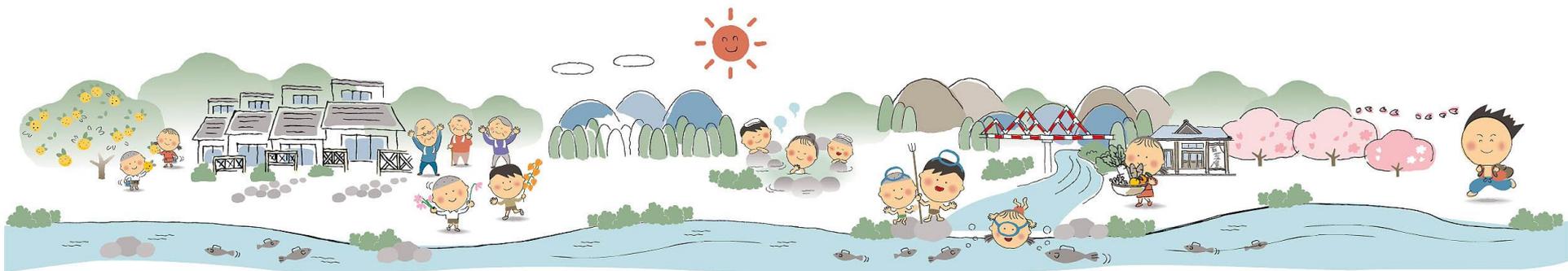
564世帯

高齢化率

42.2%(65歳以上467人)

行政区

8地区





# 本村のむらづくりへの取組み

第3次西米良村長期総合計画【後期計画】H7～

## 定住・交流人口増加を目指す

### 西米良型ワーキングホリデー制度

都市と山村の交流  
を促すシステム

交流対策の目玉



H10本格始動

交流事業  
活発化

### 第3セクター (株)米良の庄



雇用の場・村づく  
りの実働部隊

村観光施設など  
の管理運営

H7設立

## 8つの庄建設プロジェクト

街づくりの庄

健康づくりの庄

湖遊びの庄

語り部の庄

花づくりの庄

川遊びの庄

匠の庄

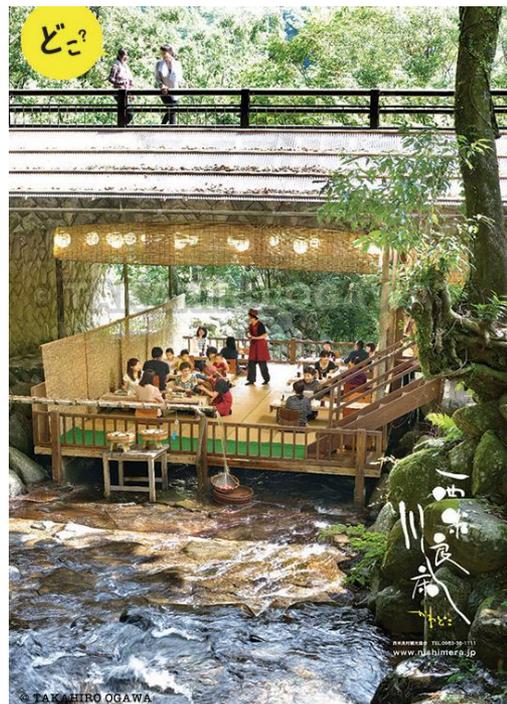
交流・滞在の庄





# 本村のむらづくりへの取組み（近年の観光等）

にしめら川床



西米良スカイトレイル



グランピング&ダッキー





# 本村のむらづくりへの取組み（特産品）



ゆず

ほおずき



カラーピーマン



ジビエ

西米良サーモン





# おがわ作小屋村 (地域自立のモデル) ～令和の桃源郷～

- 「桃源郷」を再現した、地産地消型の観光施設
- 独自の「作小屋」文化と西米良の「食」を提供する
- 小川地区住民が主体となった協議会が運営
- 平成21年にオープン
- 年間約2万人の観光客が訪れる
- 職員が常駐しており、地区の拠点となっている  
⇒ホイホイ便事業の受け渡しの拠点となる

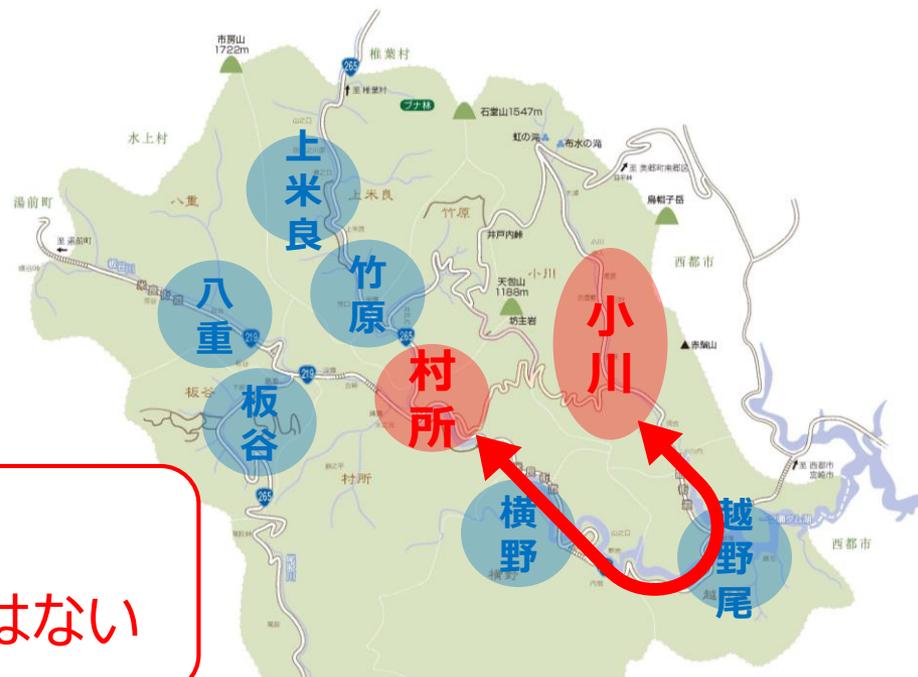




# 小川地区の概要

- 人口 87人 (R2.2月末)
- 世帯数 55世帯
- 高齢化率 58%
- 村中心部から約21km
- 移動時間 約30分

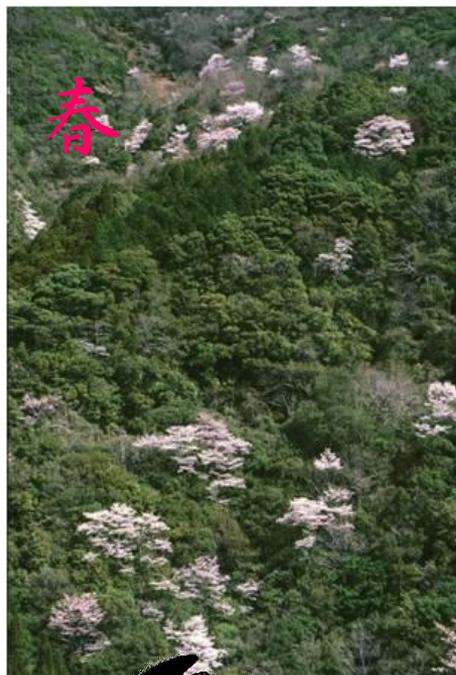
- 各宅配事業者は少量でも配達
- 村営バス乗客は満席になることはない





# カリコボーズとは

カリコボーズが豊かな自然の中に生きていて、人びとの暮らしを見守っています。



## 「カリコボーズ」

古くから米良地方に語り継がれている守り神的な存在。  
春の彼岸から秋の彼岸は川へ下り、川を守る水の神。  
秋の彼岸から春の彼岸は山へ登り、山を守る神。

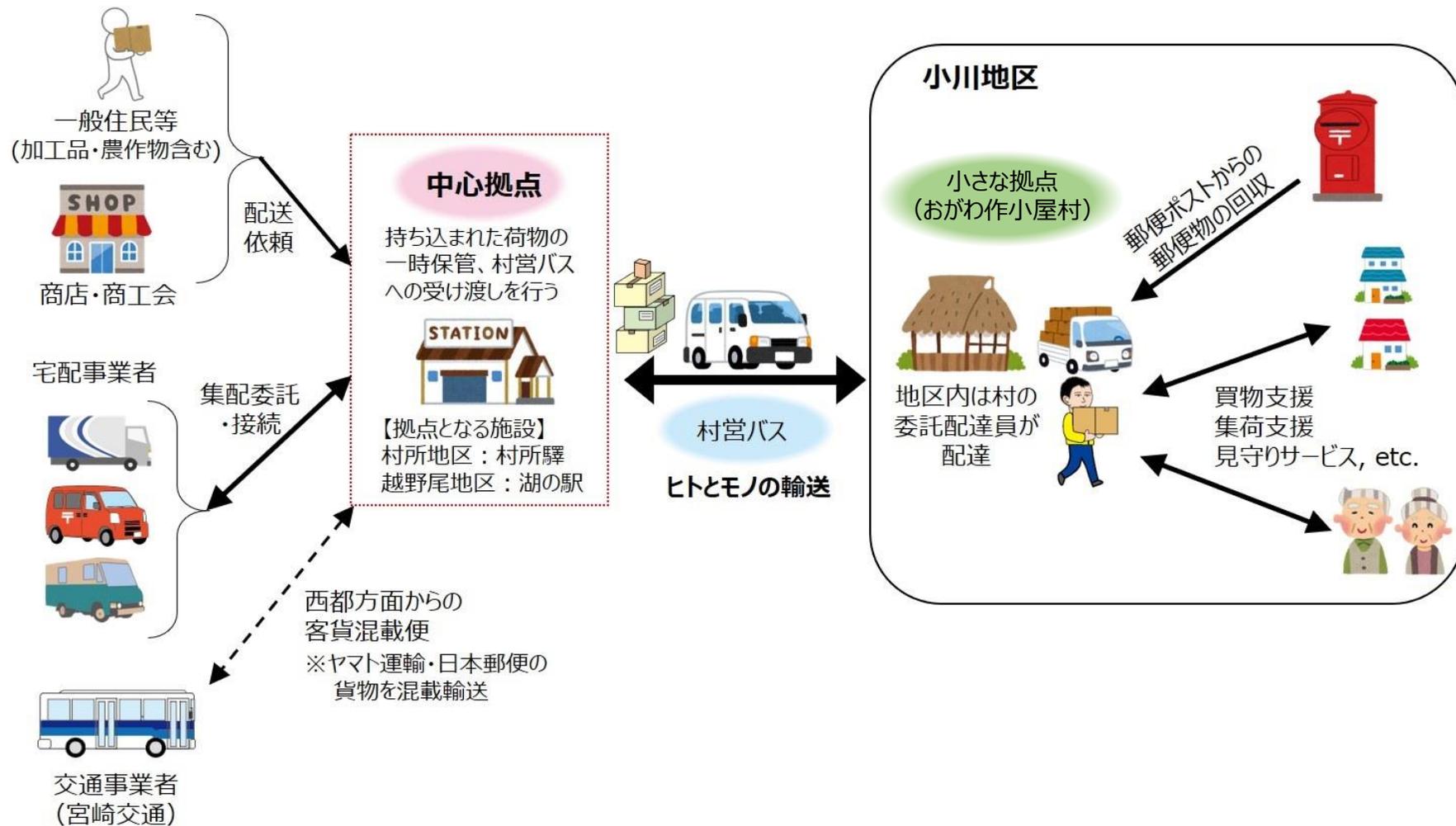


# カリコボーズのホイホイ便事業の概要

- 村営のコミュニティバスを活用した貨客混載（2020年3月開始）  
（拠点間：村所驛～おがわ作小屋村）
- 村内便の荷物のほか、日本郵便、ヤマト運輸、佐川急便の荷物も共同輸送・配達  
※村内便とは、運送事業者を介さない、村内で発送・受領が完結する荷物（観光施設への土産品など）
- 上記の荷物で、小川地区に配送するものを全て取り扱う
- ラストワンマイル対策として、小川地区の拠点（おがわ作小屋村）からは、専用の配達員が各戸配達・集荷（高齢者の見守りを兼ねる）
- 物流の効率化を図ることを目的とした「小さな拠点の整備」に関する事業として、村の総合戦略に位置付けたもの



# ホイホイ便事業のイメージ





# 契約の形態と許可

日本郵便(株)

ヤマト運輸(株)

佐川急便(株)

業務委託  
(配達・一部集荷)

西米良村

業務委託  
(配達・一部集荷・高齢者見守り)

ホイホイ便配達員

村営バス

- 自家用有償旅客運送者登録（コミュニティバス）  
⇒白ナンバー車両による旅客運送
- 少量貨物有償運送許可  
⇒村営バスでの貨客混載

配達車両

- 軽貨物自動車運送業

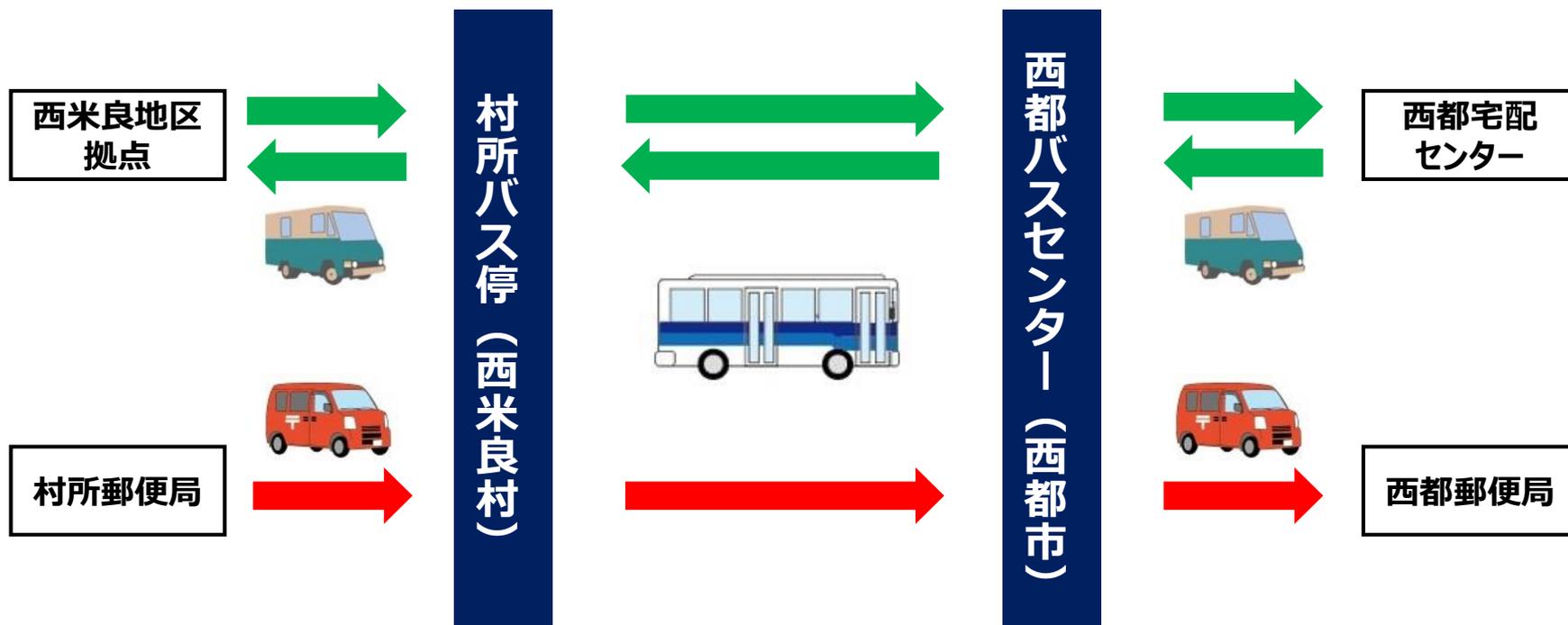


# 事業の経緯

|                 |   |
|-----------------|---|
| H22年度<br>(2010) | 貨客混載事業の可能性調査に着手（日本都市計画学会九州支部）   |
| H27年度<br>(2015) | 「地域を支える持続可能な物流ネットワークの構築に関するモデル事業」採択（国土交通省）<br>ホイホイ便プロジェクト協議会の立ち上げ<br>村内便の集荷・配達による実証運行実施 |
| H28年度<br>(2016) | 「ネットワークで明日に繋ぐ！「宮崎ひなた生活圏」モデル構築事業」採択（宮崎県）<br>村内便に加え、宅配物・郵便物の試行的配達による実証運行実施                |
| H30年度<br>(2018) | 「地域公共交通生産性向上促進事業」採択（宮崎県）<br>日本郵便、ヤマト運輸の協力のもと実証運行実施                                      |
| H31年度<br>(2019) | 本格運行に向けた協議・検討（日本郵便、ヤマト運輸、佐川急便）<br>2020年3月より本格運行開始                                       |



# 路線バスを活用した貨客混載（宮崎交通）



- H27.10.1 宮崎交通とヤマト運輸でスタート
- H29.1.16 クール便対応可
- H30.2.20 日本郵便もスタート

西米良村（村所バス停）と西都市（西都バスセンター）間を走る宮崎交通の路線バスで、ヤマト運輸、日本郵便の荷物も輸送する。



# 貨客混載事業による効果

## 住民

- 集荷時間延長による利便性の向上
- 買い物支援事業の実施（村内滞在時間延長による）
- 路線バス維持による生活基盤確保

## バス事業者

- バス路線生産性の改善
- バス路線の維持

## 運送事業者

- 共同配送による効率化
- 走行距離削減（CO2排出削減）
- ドライバーの負担軽減



# 今後懸念される問題

**「過疎化、高齢化、都市集中」という社会構造において、人と物の移動の困難化の進行**

(一社) 日本自動車工業会 小川氏

- 生活者の視点に立った物流の観点から、地方に人が住み続けるための条件整備・施策が必要
- 「人口減少・高齢化社会 = 消費・物流の縮小」の中で、人の流れと物流システムをどのように維持していくか
- ドライバー不足・負担軽減対策
- 交通・物流の効率化に向けた規制緩和  
(特にラストワンマイル対策が必要な地域)